

## ご存じですか? ウィッグや補正下着には助成が出る場合があります

がん相談支援センター 太田 英恵

化学療法や放射線治療などにより、脱毛、皮膚や爪の変色、変形、手術跡などの悩みを抱えている方に対し、ウィッグ(かつら)や胸部補正具(補正下着、シリコンパッド等)の購入やレンタルなどにかかった費用を助成する市区町村が増えてきています。

対象品目も、ウィッグ、毛付き帽子、補正下着、補正用シリコンパッド、まゆ毛ケア用品等、市区町村により様々

で、助成金額や対象条件についても違いがあります。購入日の翌日から1年間を過ぎると申請が難しくなる場合が多いので、該当するかもと思われる方は一度ご住所のある区(市)役所のホームページをのぞいてみるとよいかもしれません。

ご不明な点がございましたら、がん相談支援センターまでお問い合わせください。

### がん相談支援センターは、そのほかにもいろいろなご相談をお受けしています



がん相談支援センター(患者サポートセンター内)  
03-3269-8137(直通) 平日 9:00~16:00



独立行政法人 地域医療機能推進機構  
東京新宿メディカルセンター

発行: JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会  
〒162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1  
電話 03-3269-8111 (代表) URL: <http://shinjuku.jcho.go.jp>



独立行政法人 地域医療機能推進機構  
東京新宿メディカルセンター

がん診療情報誌

## いきいきかぐらざか

れんげ草には「心が和らぐ、苦しみを和らげる」という花言葉があります。「みなさんが自分らしく過ごせるように」という意味をこめて情報誌を作成しております。

JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会



れんげ草

## 上部消化管のがんについて～消化器内科・外科より～

### 【消化管がんに対する内視鏡治療について】

消化器内科の木原俊裕です。消化器内科はお腹の病気を診る診療科です。食道から大腸までの消化管や肝臓、胆嚢、膵臓などの疾患も治療しています。

近年では、がん罹患した患者さまの約3割は消化管のがんが占めています。がんにより亡くなる患者さまを減らすためには早期に発見し、治療していくことが重要となってきています。当院でも導入している最大125倍まで拡大観察ができる拡大内視鏡や光デジタル法を用いた画像強調観察法により内視鏡診断は進歩を続けており、早期で発見されるがんが増加しています。

内視鏡でがんが疑わしい病変を内視鏡で見つけた場合、拡大機能や画像強調を行い、病変を詳しく観察して診断をします。そして病変から組織をとり、がんかどうかを専門の病理医が顕微鏡で診断します。内視鏡の強みは、消化管にできた病気をリアルタイムで観察しながら組織をとり、診断できることです。

### 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)

消化管のがんに対する根治治療は1980年代までは手術が一般的でしたが、内視鏡技術が進歩したことで、早期がんの多くは内視鏡で治療することができるようになりました。内視鏡治療は患者さまの身体への負担が少ないので治療後の回復時間は短く、食事翌日から食べることができます。

早期がんの内視鏡治療成績を向上させたのはESD

(内視鏡的粘膜下層剥離術)が開発されたことが大きく影響しています。

ESDでは内視鏡を用い、まずがんの切除範囲を観察しマーキングを行います。その後、粘膜の下にある粘膜下層に生理食塩水やヒアルロン酸などを注射してがんが浮かせ、電気メスで粘膜下層を剥離し、がんを粘膜ごと一括で切除します(写真1)。

ESDでは従来では切除できなかった大きな病変であっても一括切除ができるようになりました。一括切除することによって局所再発率は低下し、さらに正確な病理組織診断が可能となります。

対象となる患者さまは、消化管の早期がんで、リンパ節転移の可能性がほとんどない方々です。早期がんでもがんが粘膜下層の深くまで浸潤している場合は、リンパ節転移をしている可能性があります。そのため食道、胃、大腸のガイドラインでそれぞれ詳細に適応を決められています。

当院では消化管がんだけでなく消化器疾患全般を外科と連携しながら、それぞれの患者さまに最適な治療を行っております。悪性腫瘍の場合、発見が遅れることで予後に悪い影響を及ぼす場合があります。心配な症状がある時は早めに病院に受診しご相談下さい。



消化器内科 木原 俊裕



写真1



## 【上部消化管がんの外科治療について】



外科 小山 洋伸

上部消化管の悪性腫瘍は、食道がん・胃がんを中心にGIST（消化管間質腫瘍）や悪性リンパ腫・十二指腸腫瘍などを含み、当科では適応を十分検討し外科的治療を行っております。

食道がんの外科治療は頸部・胸部・腹部の3領域リンパ

節郭清を伴う食道亜全摘術を基本として、『食道癌診療ガイドライン』に則りstageⅡ・Ⅲ症例では術前化学療法を行った上での根治切除術を標準治療としております。stageⅠ症例では直接外科治療を行うことを標準としています。当科では2013年から腹腔鏡下胃管形成術を導入し、2015年より胸腔鏡（補助）下食道亜全摘術を開始し、現在は腹臥位での胸腔鏡下食道亜全摘術を基本として手術を行っておりより低侵襲な手術を目指しております。

また、切除不能局所進行食道癌には化学放射線治療を行ったうえで切除可能となった場合にはサルベージ手術も行っており長期生存を得ている患者様もいらっしゃいます。

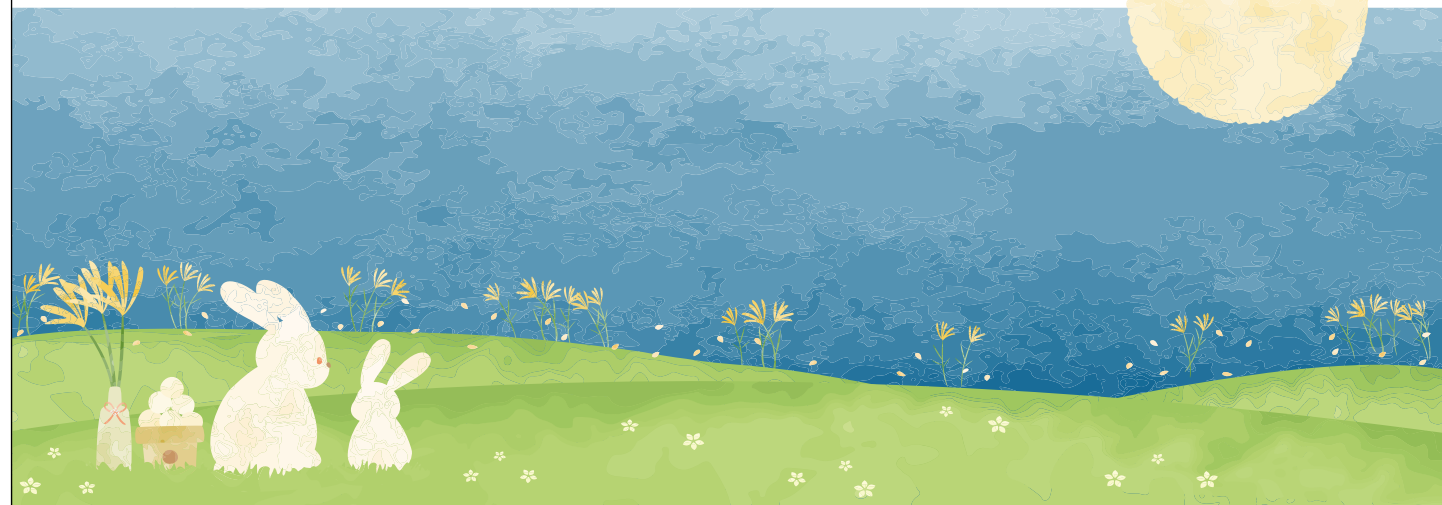
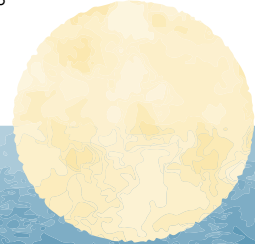
胃がんの治療についても、『胃癌ガイドライン』に則った標準的リンパ節郭清を行う根治をめざした手術を心掛けております。1990年代以降のJCOG（日本臨床腫瘍グループ）を中心とした手術に関する臨床試験結果から、症例によって脾摘術や網膜切除の省略などのエビデンスに則った至適手術を行っております。また、より進行した高度リンパ節転移や少数の限局した大動脈周囲リンパ節転移症例に対しては術前化学療法後の外科的切除+大動脈周囲リンパ節郭清などの拡大切除術を行い長期生存が得られている患者様もいらっしゃいます。

また食道がん同様、胃癌でも鏡視下手術を積極的に取

り入れており、当科では2001年頃より腹腔鏡補助下幽門側胃切除術を導入し、主に早期胃がんに対して腹腔鏡下手術を行って参りました。2015年以降は完全鏡視下手術を導入し体控内吻合を基本とした幽門側胃切除術を早期胃がん対象に行ってきました。2018年よりは胃の入り口を切除する噴門側胃切除術や胃全摘術にも腹腔鏡手術を導入しております。2020年の新型コロナ感染症のパンデミック以降は当院での胃がん手術症例数が激減しております。外出制限や行動自粛の影響で検診を受けられる方の人数が減少したことによる影響と考えます。そのためより進行した状態で発見される患者様の割合が増えております。がんの治療は早期発見・早期治療が基本ですので皆様もぜひとも検診を受けられることをお勧めいたします。

またGISTなどの胃粘膜下腫瘍などに対する新しい腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術（LECS）も消化器内科医の協力の上行っており、より低侵襲な手術を追及しています。

当院は地域医療支援病院でもあり、東京都がん診療連携協力病院でもあります。そのため、近隣の高齢な患者様も多く、高血圧や糖尿病など併存疾患のある患者様が多い傾向にあります。そういった併存疾患があるがん患者様の場合、術後の合併症リスクが高くなります。特に上部消化管の手術は呼吸器合併症のリスクが高くなる傾向にあります。当院では術前に喘息や慢性閉塞性呼吸障害などの呼吸器疾患が認められる患者様には積極的に術前リハビリテーションを導入して術後の呼吸器合併症を減らす取り組みを行っております。また循環器疾患や糖尿病などが併存している患者様には各内科医の先生方に併診いただきチームでがん治療にあたっております。患者様の病気の進行度や年齢・健康状態、ADL（日常生活動作）や術後のQOL（生活の質）を考慮した1人ひとりの患者様に最適な治療を行うことを心掛けてチーム医療を行っております。



## 緩和ケア病棟のご紹介

緩和ケア内科 金石 圭祐



緩和ケア病棟は一言でお話すると「ホスピス」です。ホスピスはがん患者さまとご家族が穏やかで苦痛のないように過ごして頂くことを最も大事なことで考えています。そのために、病棟スタッフとして医師や看護師、看護助手、薬剤師、ボランティアそのほかにも様々な人たちが協力して日々努めさせて頂いております。また環境をとっても大事にしています。今回は緩和ケアとは？とか緩和ケアにおける医療面といったやや堅苦しいお話はあえてせずに、シンプルだけどとても重要な（と私が思っている）環境的なところの絞ってお話したいと思います。

病棟は比較的静かで落ち着いてゆったりとしたところです。庭園があり沢山の植物たちを育てています。病院の中はとかく無機質な感じになりやすいですが、花や緑をみて外の空気を感じられることは多くの患者さん、ご家族の癒しにつながっているなあと思っています。また大きなリフトバス（ジャグジー付きです）があり入浴剤を入れて温泉気分に入浴して頂くこともできます。家族室があり付き添いの際に泊まって頂くこともできます。ボランティアさんが定期的にティーサービスでコーヒーやジュースをお出ししたり、リフレクソロジー（リラクゼーションできるマッサージ）なども提供して下さってたりもします（もちろん無料です）。緩和ケア病棟というと、とかく閉

鎖的でマイナスのイメージを持たれている方もおられると思いますが、病棟の中は穏やかな雰囲気を持て大切にしているところでもあります。

今回は緩和ケア病棟をご紹介できる貴重な機会を頂きました。なんだ、環境面の話ばかりじゃないかと思われた方もおられると思います。がん患者さんの苦痛緩和といった基本的な部分はもちろんしっかり行っていますのでどうぞご安心ください。また写真を沢山掲載して頂く方が私の文章で紙面を割くよりも皆様にご覧いただくことができるといご紹介はこのくらいとさせて頂きます。どうぞ今後とも当院の緩和ケア病棟をよろしくお願いたします。

